会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和3年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」（２）教職員の資質能力向上の推進①効果的な教育成果①効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第1回職業実践専門課程普及協議会 |
| 開催日時 | 令和3年7月5日（月）　13時00分～15時00分 |
| 場所 | オンライン開催 |
| 出席者 | 事業責任者：高岡 信吾 委　　　員：岡村　慎一、成底　敏、上里　政光、五十部　昌克新井　公一　　　　　　　　　　　　　　　　　　計6名　　　　　　　　請負業者：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　　　　計1名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計7名 |
| 議題等 | 1. 職業実践専門課程普及協議会リーダー挨拶（高岡）

・昨年からコロナ禍で顔を合わせることが少なかったが、成果が出ていることに感謝したい。今年度も目標・目的をクリアし、次年度に繋がるように頑張りたい。1. 令和3年度文科省委託各プロジェクトの概要・目標確認

（1）体制整備事業（成底）・昨年度、体制整備事業では専門スタッフ育成の為の調査を主に行った。・明らかになった知見としては、情報公開を含めた各省庁への提出書類の作成事務担当者の労力負担は大きく、その大部分を学校運営責任者が担っている現状がある一方で、書類作成スキルについては、マニュアルや前任者からの引継ぎは少なく、ＯＪＴで身につけている現状である。また、人材育成への要望は多くあり、中堅管理職スキルの維持・向上が専修学校の教育の質向上・魅力的な情報公開発信に必要である、ということが分かった。・調査結果から、研修開発ニーズ、科目別研修区分、研修の位置づけをまとめたので、本年度は研修区分A類～D類を軸に進めていきたい。・A．知識系分野では、3科目のユニット型。3～5分で視聴できる逆引き型のマイクロラーニングオンデマンド教材を、1科目につき4コンテンツ、合計12コンテンツの作成を推進する。・B．マネジメント分野では、今年度はセミナー開催を目標に準備を進めていきたい。教学マネジメントの優れた実施事例の紹介等ワークショップ型のセミナーを企画し、東京・福岡で開催できるようにプログラムを組み立てていきたい。・C．マーケティング分野では、自校の情報を公開することで、自校の魅力を向上させている事例の調査を行い、その内容を共有することにより専修学校の情報公開を促すということで、効果的な情報公開をしている学校の調査を行い、事例紹介とワークショップのセミナーを企画し11月～12月にセミナーを開催する。・D．教育系分野では、演習問題付きのオンデマンド型eラーニング教材の1講座作成を目標としている。・課題点として、eラーニング教材やマイクロラーニングオンデマンド教材をどのように配信するかなど検討していきたい。・修学支援や職業実践専門課程の認定、専門学校の認可など、同様の情報を繰り返し求められるケースを整理し、事務担当者の負荷を軽減すべく、文科省に対して提案することを目標の一つとして掲げている。・成果報告会は新型コロナの感染状況を見ながら、セミナー形式の報告会を開催したいと考えている。【意見等】・4分類のA類とD類について、今年度は教材の開発だけで、配信は来年度以降ということか。（高岡）　→今年度配信まで行きたいと考えている。次年度は普及方法を目標にしたい。（成底）・開発は外部に委託するのか。（高岡）　→B類に関しては専門学校東京テクニカルカレッジの協力を得て開発していく。D類に関しては内部開発で進めていくことになるかと思う。全体的にボリュームがあるが、各方面の協力を得て進めていきたい。（成底）・教材の開発については、皆さんの知恵を拝借したい。（岡村）・7月14日に第1回実施委員会がキックオフとなる。（飯塚）（2）教員研修プログラム開発事業（上里）・委員会としては、植上先生を中心とした非認知能力に関しての学習評価研修プログラムと、猪俣さんを中心としたICTを活用した教授法習得のための研修プログラムの2つの事業を進めていく。・昨年度は調査主体だったが、今年度は両WGともに、調査で得た知識をもとに研修のプロトタイプを開発し、研修を実施していくところまで進める。・教員研修プログラムは、調査項目を元にプロトタイプ開発後、複数学校の専門学校の協力を得て研修を開催する。・ICT活用WGは、昨年度コロナ禍により対面調査ができず苦労した。調査で出た課題を元に、今年度さらに踏み込んだ調査を実施し、デジタルハリウッドさんに協力をいただき、GoogleClassroomなどのツールを活用、教員・学生間でコミュニケーション、ピアラーニングを学習するための60分程度のビデオ教材を2本開発し、研修を実施する。・手引書・研修プログラムを運用し、検証を進めることが今年度の目標となっている。【意見等】・昨年オンラインでの調査のみだったので調査が多少遅れている面があるため、今年度どのくらいフォローできるかが質に関わってくるのでその点を心配しているが、自校を含めワクチン接種が進んでいるので、対面での検証に期待する。（岡村）・プロトタイプを作成した後、講義の開催は考えているか。（高岡）　→予定している。学習評価は対面が適しているが、コロナ禍なので対面開催をする際の取り決めがあると良いと感じる。（上里）・7月13日に第1回教員研修プログラム開発委員会、7月26日に第1回ICT活用WG、7月27日に第1回学習評価WGがそれぞれキックオフとなる。（飯塚）（3）共通基盤整備事業（五十部）・麻生塾の林先生がリーダーだったが、今年度より引き継いだ。・昨年度は、第三者評価はアンケート調査の実施、自己点検・評価標準モデルはプロトタイプを作成した。・今年度は、自己点検・評価標準モデルは昨年度作成したプロトタイプを使用し検証、さらにブラッシュアップを図る。第三者評価は認証機関への実態調査を行い、標準モデルのプロトタイプを作成する。他、人材育成プログラムとして学内監査・推進者育成のプログラムに関する実態調査、またプロトタイプの作成を行う予定。・自己点検・評価標準モデル検証および完成版開発の具体的な方法としては、委員会メンバーの所属する学校法人を中心とした全専研会員校20校に使用を依頼し検証する。検証の結果をもとに完成版を作成。メンバーについては現在のところ素案。・第三者評価に関する実態調査は、専修学校関連の第三者評価機関の特徴・特色やそれぞれの評価基準等や内部質保証人材として必要な能力を明らかにすることを目標としており、調査は聞き取り調査とする。調査対象は、私立専門学校等評価研究機構、専門職高等教育質保証機構、JAMOTEC認証サービス、リハビリテーション教育評価機構、職業教育・キャリア教育財団を候補としている。・第三者評価スタンダード認証モデルプロトタイプは、実態調査の結果をもとにそれぞれ求められる要件を整理する。こちらは、開発にかなりのボリュームを予想しており、予算の都合もあるが、開発は委託も検討する。・第三者評価スタンダード認証モデルプロトタイプが完成後、アクションリサーチを実施、認証モデル完成に向けて予備的知識を得る。2～3校を対象に会員校間で相互検証をしながら進める。・学内監査・推進者育成プログラムプロトタイプの作成は、認証機関のヒアリング調査に併せて情報を得るようにし開発に反映させる。6時間程度のオンライン講座プラス6時間程度の対面講座を検討している。【意見等】・先日の文科省の委員会では、評価項目ごとのエクセレントな部分をどのように評価するか、なおかつエクセレントな部分を出していくための補助金等の仕組み構築を進める様子。この事業がその仕組みに噛み合うと需要が増えると感じる。（岡村）・各認証機関のヒアリングに関して、各認証機関のメリットを打ち出す必要があるが、この事業により第三者評価の普及以外にあるか。（高岡）　→各認証機関の差が分かるので、学校に合った機関を選択できる。偏りが出るかもしれないが、マーケットが広がることでメリットが出ると考える。（五十部）・7月12日に第1回実施委員会、8月2日に第1回運営委員会がそれぞれキックオフとなる。（飯塚）・説明いただいた内容を代表に伝える。またオブザーブを含め今後開催されるアクションリサーチ、研修等への参加を検討する。（新井）3. 役割分担確認・担当外の委員の各委員会への参加については謝金の有無が関係するが参加すること自体には問題ない。松田先生に関しては、林先生の推薦があったので林先生にも打診しながら進めると良いと考える。（飯塚・岡村）4. コロナ禍における対面会議開催等に関する取り決めについて・昨年度コロナ禍における対面会議開催に関する取り決めを作成した。内容について、セミナー開催を含め見直し、再度取り決めたい。（飯塚） |
| 配布資料 | ・令和3年度事業計画書・210714 第1回体制整備事業実施委員会資料・令和3年度体制整備事業　事業概要（飯塚）・a1\_職業実践専門課程普及協議会\_共通基盤整備\_資料\_20210705・コロナ禍における会議開催等に関する取り決め |

以上